

東京国立 博物館 ニュース

第691号
展示と催し物
案内

2-3 ◎ 特別展「大琳派展——継承と変奏——」

4 ◎ 特別展「スリランカ——輝く島の美に出会う」

5-10 ◎ 平常展見どころ案内2008年10月・11月

重文 文殊菩薩像および侍者立像／

絢爛の琳派絵画／応挙館の障壁画／

特集陳列「自在置物——本物のように自由に動かせる昆虫や蛇——」／

特集陳列「世界への扉——東京国立博物館の洋書コレクション」／

国宝 観楓図屏風／重文 李白吟行図

11 ◎ 東京国立博物館コレクションの紹介 第3回

「アイヌコレクション」

12-13 ◎ 教育普及事業 14 ◎ INFORMATION 15 ◎ TOPICS

16 ◎ 2008年10月・11月の展示・催し物

2008

1011

月号



◆ 尾形光琳生誕350周年記念 ◆

大琳派展

Celebrating the 350th Anniversary of Ogata Korin's Birth
Treasures by Rinpa Masters – Inheritance and Innovation

| 継承と変奏 |

本阿弥光悦

俵屋宗達

尾形光琳



本

年は、尾形光琳の生誕三五〇年にあたります。これを記念して、東京国立博物館では、琳派の六人の作家に焦点をあてた展覧会を開催します。

琳派という呼び名は今日大変ポピュラーになつており、琳派を冠した展覧会もしばしば開催されてきました。しかし、「琳派」の名前が一般化されたのはさほど古いことはありません。江戸時代、酒井抱一は「尾形流」と呼んでいましたし、明治時代には、「光琳派」の呼称が用いられていました。一九七二年に当館で創立百年記念の展覧会として「琳派」と題された展覧会が開かれましたが、これ以後「琳派」がこの流派の呼称として定着していきました。今回の展覧会は、その「琳派」展以来、三十六年ぶりの琳派を対象とした展覧会です。

今回の展覧会は、本阿弥光悦（一五五八―一六三七）、俵屋宗達（生没年不詳）、尾形光琳（一六五八―一七一六）とその弟乾山（一六六三―一七四三）、酒井抱一（一七六一―一八二九）、鈴木其一（一七九六―一八五八）の六人の芸術家の優品によって琳派の特質を検証しようというものです。これら六人の芸術家は、二人ずつで時代を隔てた三世代に分けて考えることができます。つまり直接の師弟関係によらない断続した流派なのです。では、どのようにして流派としての特徴が作られたのでしょうか。今回の展覧会では、それを考えながら見ていただきたいと思っています。

「風神雷神図屏風」（図4）は、宗達の代表作としてよく知られていますが、光琳が宗達の作品を写し、さらに、光琳作品を抱一、其一が写して描いています。今回はその四作品が会場に並びます（四作品が同時に展示されるのは10/28（11/16）。風神雷神図は、作品を通じて学び継がれていった琳派を象徴するものですが、主題に注目して見ていくと、会場に並ぶ作品には、それ以外にも先行作品を継承しながら描かれていった作品が多いことに、そしてその中に個性の

1	2	4
3		
5		6



1. ◎黒楽茶碗 銘 雨雲 本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 東京・三井記念美術館蔵
2. ◎染付金銀彩松波文蓋物 尾形乾山作 江戸時代・18世紀 東京・出光美術館蔵
3. ●燕子花図屏風 尾形光琳筆 江戸時代・18世紀 東京・根津美術館蔵(10/7～19展示)
4. ●風雷神図屏風 俵屋宗達筆 江戸時代・17世紀 京都・建仁寺蔵(10/28～11/16展示)
5. ◎夏秋草図屏風 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀
6. 夏秋溪流図屏風 鈴木其一筆 東京・根津美術館蔵(11/5～16展示)

鈴木其一

尾形乾山

酒井抱一



展覧会データ

尾形光琳生誕350周年記念

「大琳派展——継承と変奏——」

10月7日(火)～11月16日(日)

東京国立博物館 平成館特別展示室第1～4室

主催：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション

特別協賛：キヤノン株式会社 協賛：花王、光村印刷

協力：日本航空、JR東日本

観覧料：一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)

※()は前売/団体 ※スリランカ展とのセット券2,000円は11/16まで発売

※中学生以下は無料(生徒手帳など年齢のわかるものをご提示ください)

※団体は20名以上 ※障害者とその介護者1名は無料(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)

お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

展覧会公式サイト：<http://www.rinpa2008.jp/>

違いがあることに気づかれると思います。
琳派は、絵画だけの流派ではありませんでした。書家として知られるだけでなく、アートディレクターとして蒔絵や茶碗など工芸の分野にも、創作の場を広げていった光悦の活動が琳派芸術の幅の広さを示しています。宗達筆とされる作品の中にも、個人作家というよりも宗達を主人とした工房の作家達によって生み出されたものが含まれていると考えられます。

光琳の代表作である、「燕子花図屏風」(図3)は、宗達が得意とした同じモチーフの型を反復しながら配置させる方法が用いられています。乾山の「染付金銀彩松波文蓋物」(図2)もやはり同じモチーフが重ね合わされており、四角の中に収められた金銀彩は光悦筆の金銀泥下絵の料紙装飾に通じるものがあります。

抱一の「夏秋草図屏風」(図5)は、光琳の「風雷神図屏風」の裏面に、光琳を意識して主題を変え表と対になるように描かれました。同じく夏秋を対とした「夏秋溪流図屏風」(図6)で、其一是、師である抱一の「夏秋草図屏風」を意識し、更にその変奏を試みたように、思われます。(田沢裕賀)



◎カーライツカール・アッマイヤール坐像

ポロンナルワ時代・11世紀
青銅 高28.4cm コロンボ国立博物館蔵
シヴァを信仰する女性の聖者

スリランカ

輝く島の美に出会う



2008年9月17日(水)～11月30日(日)
東京国立博物館 表慶館

主催：東京国立博物館、読売新聞社、スリランカ民主社会主義共和国文化・国家遺産省
後援：外務省、スリランカ大使館 助成：国際交流基金 協力：スリランカ航空
観覧料：1,200円(1,000円)、大学生1,000円(800円)、高校生800円(600円)

※()内は団体料金。※大琳派展とのセット券2,000円は11/16まで発売※中学生以下は無料(生徒手帳など年齢のわかるものをご提示ください)※団体は20名以上※障害者とその介護者1名は無料(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)
お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル) 展覧会公式サイト：<http://www.serendipity2008.jp/>

シンハラ語で「光り輝く島」という意味をもつスリランカは、「インド洋に浮かぶ真珠」とも称される、豊かな文化と自然に恵まれた美しい島国で、2千年以上続いたシンハラ王朝の時代から仏教王国として栄えました。また、南インドから移住したタミル人を中心にヒンドゥー教が、アラビアの商人を中心にイスラム教が広がるなど、スリランカにはさまざまな民族・宗教が共存しています。本展はこのようなスリランカの歴史の流れを、各時代を代表する選りすぐりの美術作品を通して紹介しようとするものです。

展示は3章だてになっており、第1章ではインドから来たヴィジャヤ王子によって建国され、その子孫が都を構えて栄えたアヌラーダプラ時代(紀元前3世紀から紀元後11世紀)、第2章では1017年にインドのチョーラ朝によるスリランカの北部支配が始まり、都がポロンナルワに移された時代(11世紀～13世紀)、そして第3章では15世紀末にヴィクラマパーフ王によっておこされたキャンディ時代(16世紀～20世紀)に焦点をあてています。それぞれの

時代において、当時の人々の篤い信仰を集めた仏教やヒンドゥー教の彫刻像をはじめ、キャンディ時代にさかんになった象牙細工をはじめとする工芸品や、華麗な宝飾品などを中心に約150点の作品を展示しています。

(加島 勝)



◎宝石箱

後期キャンディ時代・18世紀
銀 高8.4cm コロンボ国立博物館蔵



◎ヤクシニー

後期アヌラーダプラ時代・4世紀
石灰岩 高37.6cm コロンボ国立博物館蔵
古代インドの神像。南インドから輸入された

◆記念講演会

「スリランカの文化遺産」

日時：2008年11月15日(土) 13時30分～15時

講師：国際記念遺跡会議名誉委員長ローランド・デ・シルワ氏

会場：東京国立博物館 平成館大講堂

定員：380名(事前申込制)

無料・ただし、特別展「スリランカ」の観覧券(半券でも可)が必要。

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・聴講を希望する講演会の日付を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、左記までお申込ください。

*1枚のはがきで、最大2名まで申し込み可。2名の場合はそれぞれ氏名を必ず明記の上、ご応募ください。
*応募多数の場合は、抽選の上聴講券を送ります。

申込先：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル(ウインダム内) 特別展「スリランカ」広報事務局 講演会 11月15日 係
申込締切：10月21日(火) 必着

◆ウィツキーさんのトークショー

スリランカ出身でテレビや講演活動などで幅広く活躍中のウィツキーさんが、スリランカの魅力についてお話しします。最初に当館研究員による展覧会紹介もございします。40分程度。

日時：第④回 11月14日(金) 18時30分
会場：東京国立博物館 平成館大講堂
定員：380名(事前申込制)

無料・ただし特別展「スリランカ」の観覧券(半券でも可)が必要。

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に受講希望の郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・聴講を希望するトークショーの日付を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記し、左記までお申込ください。

*1枚のはがきで、最大2名まで申し込み可。2名の場合はそれぞれ氏名を必ず明記の上、ご応募ください。
*応募多数の場合は、抽選の上聴講券を送ります。

申込先：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル(ウインダム内) 特別展「スリランカ」広報事務局「ウィツキーさんトークショー」第④回係
申込締切：10月14日(火) 必着

お問い合わせ：03-5700-8600(ハローダイヤル)

関連事業

平常展見どころ案内 2008年10月・11月

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

表情や衣の表現細かな彩色に注目

重文 文殊菩薩像および 侍者立像 康円作

9月24日(水)〜2009年1月4日(日)
本館11室 彫刻



4



2



3



5

◎文殊菩薩像および
侍者立像 康円作
鎌倉時代・文永10年(1273)

康円(一二〇七?)は、運慶の次男康運の子と伝え、運慶三代目を代表する仏師です。当館保管の文殊菩薩像および侍者立像は康円晩年の代表作です。獅子に乗った文殊菩薩(図1)に四人の侍者が従う、いわゆる渡海文殊の群像で、獅子の頸部刻ぎ目の銘文と体内部に納入されていた文書から、康円の文永十年(一二七三)の作と知られます。

文殊のほか獅子や光背、四人の侍者像、さらに各像の彩色も造像時の姿をよく残す稀な作品です。一群の様子は劇的で、当館の彫刻陳列の目玉の一つですが、今回は各像を個別のケースに入れて陳列します。一群での陳列のような物語性は感じられませんが、そこではよく見えなかった各像の表情や衣文の表現、また細かな彩色をよくご覧いただけます。目を凝らさなければ見えない文様もありますので、隅々までじっくり見てください。

文殊菩薩は少年の相です。眉をひそめる表情からは利発さが感じられます。体は丹下地に金泥彩。天衣や

腰布には可憐な植物文、条帛や裙には幾何学文が截金で表されます。光背と獅子は今回陳列しません。

善財童子(図2)は、後ろを振り向き、群像では一行を先導します。すこし垂れ目の、愛らしい幼児の姿です。文様は截金による植物や幾何学文、彩色による植物文様も施されます。

優填王(図3)は獅子の手綱をとり、ます。表情に忿怒の相をのぞかせる壮年です。袍衣には波濤やそこから現れる龍、州浜や岩松が金泥で表されます。腰などには輪郭線を盛り上げた文様がみられます。

仏陀波利三蔵(図4)は、向かって文殊の右後方に従います。額や目尻に皺のある初老の相です。口を広げて何かつぶやいているようですが、厳しさが漂います。遠山袈裟を着け、截金で文様を施します。

大聖老人(図5)は左後方で、顔に多くの皺を刻む老相です。静かな面持ちにはやさしさも感じられます。袍衣には大きめの文様が大胆に施されますが、頭巾や内衣には細やかな文様がみえます。(丸山士郎)

絢爛の琳派絵画

— 巨匠と継承者

特別展「大琳派展—継承と変奏—」に関連した琳派のミニ特集です。特別展では光悦・宗達、光琳・乾山、抱一・其一の六人の芸術家たちの選りすぐりの作品をご覧いただけますが、ここでは宗達や光琳、乾山の作品に加え、彼らの弟子たちの作品を展示して、それぞれの時代や個性的な表現を見比べていただこうと思います。

下は宗達が描く秋草よりも写実的です。宗達の秋草の絵とは違い、草花の前後の位置関係を強調しています。また、加賀藩前田家の侍医であった立林何昂は、江戸で乾山に画法を習い、光琳芸術の最初の継承者として認められ、光琳が使っていた「方祝」の印章を譲られています。さらに、光琳に私淑して大坂で活躍した中村芳中は、琳派の画家がしばしば使う「たらし込み」という水墨や絵

10月7日(火)～11月16日(日)
本館8室 書画の展開—安土桃山・江戸



(右) 拾得図 尾形光琳筆 江戸時代・18世紀
山本富子氏・山本賢二氏寄贈



(左) 紅葉に菊流水図 尾形乾山筆 江戸時代・18世紀
山本富子氏・山本賢二氏寄贈



梅鶯鶯図(部分) 田中抱二筆 江戸時代・19世紀

の具のにじみの効果を活かした技法をより強調しています。彼の描くモチーフには、芳中独自の丸みのある間延びした形態感覚もうかがえます。池田孤村は、酒井抱一の門下で同門の鈴木其一と双璧ともいわれました。同じく抱一の弟子の田中抱二は気品ある色彩で動植物を描いています。これらの絵画とともに光琳の父で京都の呉服商「雁金屋」の当主、尾形宗謙の書や抱一の手紙なども展示します。



◎秋草図屏風(部分) 俵屋宗雪筆 江戸時代・17世紀 写実的に草花を表現した現実的空間



写生に基礎をおいた迫真の筆技

「応挙館の障壁画」



10月7日(火)～11月16日(日)
本館7室 屏風と襖絵



芦雁図襖 円山応挙筆 江戸時代・天明4年(1784)



芦雁図襖(部分) 円山応挙筆
江戸時代・天明4年(1784)
羽毛の手触りさえ感じさせる迫真の筆技

襖十面に渡って水辺に雁が群れ集い(図上)、杉戸には朝顔のそばで遊ぶ子犬が愛らしく描かれています(図下)。これらの襖絵や杉戸絵は本館北側の庭園に建つ応挙館の室内に描かれたものです。応挙館はもともと尾張国(現在の愛知県)の天台宗寺院、明眼院(みょうがんいん)の書院として、寛保二年(一七四二)に建てられたもので、古く眼の治療をするお寺として名声を博していました。障壁画は応挙が眼を病んだときに治療のお礼に揮毫したものと伝えられています。その後、明治時代に三井財閥の総帥益田孝(とんのう ちやう) (鈍翁)氏が買い取って、御殿山(東京都品川)の邸内に移築し、後に昭和八年(一九三三)に当館へ寄贈されました。

応挙は、写生を基本において対象を写實的に表現し、十八世紀の京都画壇に大きな足跡を残しました。その表現は近代日本画にも大きな影響を及ぼしています。芦雁図(図左)にみる筆さばきは、墨の濃淡を生かして雁の立体感や羽毛の質感を生み出しています。応挙館二之間の西側に幅広の襖四面が、北側に残る六面がはめられていました。今回、展示室の西と北の壁面に応挙館と同じ位置関係で展示して、応挙館室内の立体的な絵画空間を体感していただこうと思います。

朝顔獅子図杉戸 円山応挙筆 江戸時代・天明4年(1784)



なお、応挙館の外観は秋の庭園開放でご覧いただけます。また応挙館室内は現在、複製画によって当初の姿を再現していますが、当館ボランティアによる応挙館茶会に参加いただければ、すべての画面をご覧いただくことができます。(松嶋雅人)

秋の庭園開放は10月21日(火)～11月30日(日)の10時～16時です。
ボランティア茶会は毎月第3日曜日に催行しています。本誌16ページのカレンダーをご覧ください。

注目の 特集

本館9室 能と歌舞伎

豪華で華やかな能装束の世界

特集陳列 「安土桃山時代の
能装束」

9月23日(火・祝)～11月9日(日)

能が武家社会や寺社を中心に演じられるようになったのは室町時代からですが、戦国時代を経て安泰へとむかう安土桃山時代には、能の文化も様変わりしました。刺繍と金箔で埋め尽くすように模様をあらわした縫箔や、新技術によって織られた唐織、舞台衣装にふさわしい大柄で晴れやかな模様を型染めにした素襖や

直垂、中国から取り寄せられた珍しい黄緞で製作された法被や狩衣などで華やぎました。長州藩毛利家や大和猿樂四座の一つである奈良の金春座、岐阜県関市・春日神社などに伝わった重要文化財七件を含む逸品が一堂に会する機会をお見逃しなく。

(小山弓弦葉)

◎縫箔 紅白段短冊八橋雪持柳模様
安土桃山時代・16世紀
華やかな紅色に総繡の縫箔は毛利家伝来



本館14室 工芸

かたちはそっくり、
動きは自由自在

特集陳列 「自在置物

——本物のように自由に
動かせる昆虫や蛇——」

11月18日(火)～
2009年2月1日(日)

鉄あるいは銅、銀などで動物、鳥、海老、昆虫を作り、しかもそれが本来的にもっている体、手足などを動かすことのできる機能までを追求した置物を自在置物と称しています

本館特別2室 企画展示

東西文化の交流の諸相

特集陳列 「キリシタン

——大航海時代の
キリシタン遺物——」

10月7日(火)～11月16日(日)

十五世紀のはじめごろから十七世紀にかけて、ヨーロッパ人は海外進出をめざし、新天地を求めて未知の世界への航海に出かけました。一五四九年にはイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルがわが国でキリスト教の布教を行い、九州などの諸大名がキリシタンに改宗するなど、信徒の数は次第に増えていきました。一



自在龍 明珍宗察作(みょうちんむねあき)作 江戸時代・正徳3年(1713)
鉄を打ち出して写實的に作るが、それだけでなく胴や脚、爪まで自由に動かすことができる。自在置物として最古の年号が記される

す。自在置物が制作されたのは江戸時代中期ころからと思われ、現存作では正徳三年(一七一三)銘の龍がもっとも古い作品です。また作者は明珍姓を名乗る者がほとんどで、甲冑師が制作したことがわかります。

江戸時代の平和な時期に、甲冑の鍛錬技術を活かして、こうした置物を制作するようになったと考えられます。自在置物は写真から可動にまで進んだ特殊な金工品として注目されてきましたが、いままで本格的な展覧会は行われませんでした。今回は龍や蛇のほか昆虫や蟹、海老などさまざまな種類の作品を展示して、その巧緻な世界を紹介します。

(原田一敏)

五七九年に來日した巡察師ヴァリニャーノが設置したセミナリオやコレジオでは、音楽、語学、美術などの西欧の教育が実践され、絵画などの優れた作品が制作されていたと考えられています。

展示では、大航海時代にポルトガル船などによってもたらされ、またわが国で制作されたキリシタン遺物を中心に紹介し、東西文化の交流の諸相をご覧いただけます。(高橋裕次)



◎聖母像(親指のマリア)
イタリア・17世紀
17世紀フィレンツェの画家カルロ・ドルチ(1616～86)が描いたともいわれている

江戸幕府以来の貴重な収集品

特集陳列「世界への扉——東京国立博物館の洋書コレクション」

10月28日(火)～12月7日(日)

東京国立博物館に西欧の古い書物がある、ということ意外に思われるかもしれません。当館は十六世紀以降に刊行された洋書を多数所蔵しています。江戸幕府が長崎経由で入手したオランダ語書籍、シーボルトが二度目の来日時に持参した博物学書、明治政府が購入した欧米各国の書籍など、さまざまな機会に日本に渡ってきたものです。近年、館外の研究者の協力を得て文化財としての調査を進めてきました。今回の展示はその中間報告とも言えるべきもので、オランダ語の書籍を中心にご紹介します。ケンペル『日本誌』に代表される西欧から見た日本情報の面白さや、メーリアン『スリナム産昆虫変態図譜』のような手彩色の美しい図版をお楽しみください。

(田良島哲)



『スリナム産昆虫変態図譜』(フランス語版)
マリア・ジビーラ・メーリアン著 1726年

素朴で独特の魅力をもつ青い絵の器

特集陳列「ベトナムの染付」

10月21日(火)～2009年1月12日(月・祝)

ベトナムの染付は、中国の青花磁器の影響を受けて作られたやきものです。十五～十六世紀当時、明の支配を断ち切った黎王朝の下、景德鎮窯の影響を受けたやきものが作られるようになりました。日本に伝わり、「安南陶」と呼ばれて親しまれたものです。白と青の対比が美しく、鋭い意匠感覚を見せる中国の青花とは異なり、白化粧を施したベトナムの染付は、素朴で温かな印象を与えます。動植物が生き生きと描かれた魅力にあふれる作品もあります。今回、参考作品として、十五世紀の景德鎮窯の作品を展示いたします。筆の運び、コバルトの発色、土の風合いなど、さまざまな点を比較しながら、染付の魅力をご堪能ください。

(三笠景子)

世界的な印譜コレクション

特集陳列「中国古銅近人印譜」

11月5日(水)～12月25日(木)

当館では昭和五十一年(一九七六)、実業家の横田実氏から、漢南印譜コレクションとして知られる中国古銅印譜一九八点・近人印譜二四七点のご寄贈を受けています。これに加えて、平成十四・十五(二〇〇二・三)の両年度には、文化勲章受賞者の小林斗盦(庸造氏より、懷玉印室コレクション)の中国稀観印譜および篆刻資料四二三件のご寄贈を受けました。歴代の主要な印譜を網羅するこれらのコレクションには、製作部数の少ない原鈐本や、編者自らが注記を書き加えた中国でも見ることでできない稀観本が多数含まれています。世界的な印譜コレクションと言っても過言ではないこれらの収蔵品の中から、中国古銅印譜、中国近人印譜の優品を展覧します。

(富田淳)

集古印譜 甘陽編 明時代・万暦24年(1596) 小林斗盦氏寄贈
現存する作例が極めて少ない明刊本の一つ。



○染付鹿山水文大皿 ベトナム
15～16世紀 躍動感あふれ、
いまにも動き出しそうな
鹿の表現は、手馴れた
画工の存在を
うかがわせませす





●観楓図屏風 狩野秀頼筆
室町～安土桃山時代・16世紀
今も昔も高雄は紅葉の名所。生き生きとした
人物描写とともに鳥の動きにご注目



本館2室 国宝室

晩秋の京都、神護寺へお参り

国宝 観楓図屏風

狩野秀頼筆

10月28日(火)～11月24日(月・休)

京都高雄の紅葉狩を描いた作品です。展示室ではまず右下の女性たちの宴をご覧ください。その上の神護寺へ目を移し、雁の群れを追っていくと、その先には雪化粧の愛宕神社に詣でる人びとがいます。画面下へ降りる白鷺に沿って目線を動かすと、今度は歌い踊る男性の集団が。さらに僧と稚児、また橋の上の樂人などを見るうちに、絵を観ている私たちが神護寺へ向かう門をくぐることとなります。輪のような構図を支えるのは川を囲む四本の楓。モチーフの配置によつて奥行きも巧みに表現しています。

(遠藤菜子)

本館特別1室

特集陳列

「装飾料紙と鑑賞料紙」より

重文 松浦宮物語

11月5日(水)～12月14日(日)

松浦宮物語は、鎌倉時代初期に成立した物語です。今回紹介するのは、蜂須賀本と呼ばれる、綴葉装の冊子の写本。素紙(鳥の子紙)、藍・紫の雲紙(打曇紙)、金銀泥下絵紙、染紙の料紙が交用されており、鎌倉期における金銀泥下絵紙の変遷や、変動期の宮廷書道をうかがわせる貴重な作品です。今回の特集陳列では、松浦宮物語のほか、元永本古今和歌集(国宝)、益田本和漢朗詠集(重文)、石山切など装飾料紙の歴史を伝える代表的な作品を展示いたします。典雅優雅な装飾料紙の世界をご鑑賞ください。

(高橋裕次)



重文 李白吟行図 梁楷筆

10月7日(火)～11月3日(月・祝)

筆と墨の調和

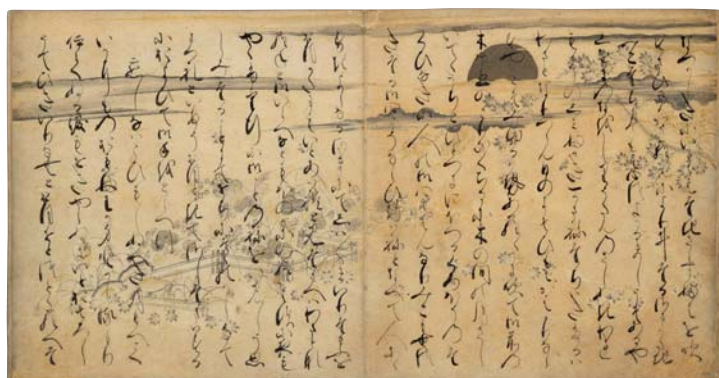
◎李白吟行図 梁楷筆 南宋時代・13世紀

梁楷は南宋時代の宮廷画家で人物、山水、鬼神などを巧みに描きました。特に水墨の人物画は減筆体といわれ、草々とした簡略な表現を本

領としました。本図は唐時代の詩人李白を描いたものとされ、筆と墨が見事に調和した梁楷の減筆体の人物画の代表作です。詩仙と称えられた李白の詩には酒と月がよく詠われますが、本図もあるいは月光の下で吟行する李白を描いているのかも知れません。朱文の大印は元朝に仕えた阿尼哥の蔵印といわれ、江戸時代には茶人として知られる松平不昧の愛蔵品でした。

(湊信幸)

◎松浦宮物語
13世紀後期～14世紀はじめの書写



東洋館第5室 中国漆工

「ぐり」模様って？

屈輪盆

11月11日(火)～

2009年1月12日(月・祝)

ぐるぐる——という感じでしょうか。複雑怪奇な渦巻き模様のお盆です。これは中国の宋時代のお盆で、唐草を幾何学風に図案化して、漆を彫って表わしたものです。漆は樹液なので、塗り重ねると厚みが出て、彫ることが出来ます。日本のつるりとした塗り物とは違った感じですね。この場合は、赤や黄色の漆を交互に塗り重ね、一番上に黒い漆を塗り、模様をまわりを斜めに彫って、立体感を出しています。日本では、この唐草を「曲々」と書いて「くりくり」と読み、ついには屈輪という名前になりました。

(猪熊兼樹)



屈輪盆
南宋時代・12～13世紀

東京国立博物館 コレクションの紹介

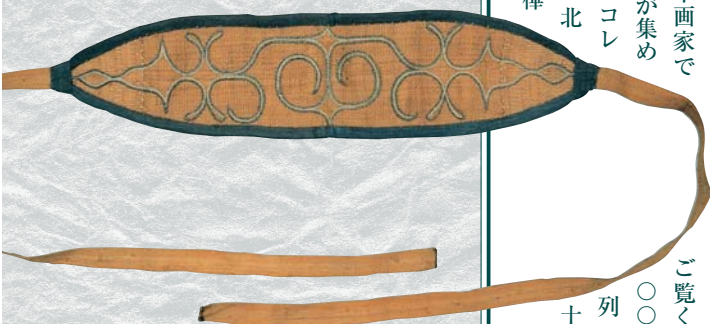
第3回

アイヌコレクション

No.



アットウシ 樺太アイヌ 19世紀
平子はつ氏寄贈（～11/9まで展示）
めずらしい子供用のアットウシ



マタンブシ 北海道アイヌ 19世紀
博覧会事務局引継（11/11～展示）
アットウシ地に渦巻き（モレウ）や
棘（アイウシ）の文様を刺繍する

東京国立博物館のアイヌコレクションは、大きく分けて以下のような収蔵の成り立ちとなっています。明治八年（一八七五）の博覧会事務局からの引継、明治十六年（一八八三）の北海道事業管理局からの寄贈、昭和二年（一九二七）の徳川頼貞氏からの寄贈、平成元年（一九八九）の平子はつ氏からの寄贈、そして数多くの方からの寄贈および購入です。

博覧会事務局からの引継は、その多くが明治六年（一八七三）に開催されたウィーン万国博覧会に出品するために集められたものです。優品も多く、かつさまざまな種類の品目を集めていることが特徴です。

北海道事業管理局からの寄贈は、明治十五年（一八八二）に開拓使廃止にともなって当館に寄贈されたか、もしくは重複品などの寄贈を受けたか、という経緯だったのではないかと当館元研究員の佐々木利和氏は述べています。徳川頼貞氏（紀州家）からの寄贈は、アイヌに留まらず日本・世界各地より集められた考古、典籍、貨幣等あわせて一万件を超える作品があります。ただし、すべてが徳川氏によって集められたものではなく、二条基弘公から譲渡された「旧銅駄坊コレクション」が多量に含

まれていることがわかっています。銅駄坊陳列館あるいは銅駄人類学室とも呼ばれ、二条公の唐名から銅駄と名づけられたもので、詳細は未詳なものの、明治三十五年（一九〇二）ころ開設された私設博物館でした。これらの作品群は徳川家に譲られたのち、当館に寄贈されたものであり、当館のアイヌコレクションの根幹をなすものです。平子はつ氏からの寄贈は、日本画家であつた平子聖龍氏が集められた五十一件のコレクションであり、北海道のみならず樺

（日高慎）



首飾 北海道アイヌ 19世紀
徳川頼貞氏寄贈
各種の色ガラス玉と真鍮大珠を
連ねた美しい首飾

Collections of
Tokyo National Museum

Ainu

平成館
小講堂

「こどもたちのアートスタジオ」

当館生涯学習ボランティアによるワークショップを開催いたします。

「^{ねつけ}根付作り」

本館10室にある根付を見学した後に、粘土を加工してオリジナル根付を制作します。

日時：11月16日(日)13:30～15:30(120分)

場所：平成館 小講堂 対象：小学校3年生から高校生 ※保護者の方の見学も可能です(但し平常展入館料が必要です) 定員：10名程度。

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に、希望コースと実施日、

郵便番号・住所・参加される方のお名前(ふりがな)・学年・電話番号・保護者が一緒の場合はその人数、「返信用表面」に、返信先の郵便番号・住所・氏名を明記し下記までお申し込みください。

締切：「根付作り」11月3日(月・祝)必着

※締め切りの後、参加券をお送りします。なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 ボランティア室

平成館
小講堂

特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」関連企画

ワークショップ「唐紙もようのオリジナル料紙を作ってみよう」

11月7日(金)、12月14日(日)

特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」に関連して、ワークショップを行います。平安時代中期から鎌倉時代中期にかけて、宮廷貴族が和歌などを書写するために用いた紙には、金銀や雲母を用いた優美な装飾が施されていました。

研究員とともに展示作品を鑑賞したのち、唐紙もようのオリジナル料紙を作ってみましょう。

日時：①11月7日(金)18:00～20:00 ②12月14日(日)14:00～16:00

会場：東京国立博物館小講堂 対象：一般(高校生以上)

定員：20名(応募者多数の場合は抽選。一度の申し込みで2名までお申し込みいただけます) 参加費：無料(ただし当日の入館料が必要です)

申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで ①参加者全員の氏名(ふりがな) ②郵便番号・住所 ③電話番号(FAX番号) ④参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「一般向け料紙ワークショップ」係

FAX: 03-3822-3010

電子メール：edu@tnm.jp(件名に「一般向け料紙ワークショップ申し込み」とご記入ください)

締切：①10月20日(月)必着 ②11月20日(木)必着

平成館
小講堂

特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」関連企画

ファミリーワークショップ「唐紙を摺って散らし書きに挑戦！」

12月13日(土)、14日(日)

特集陳列「装飾料紙と鑑賞料紙」に関連したファミリー向けのワークショップです。展示室で研究員とともに優美な装飾料紙を鑑賞したのち、唐紙もようのオリジナル料紙を摺って、来年のカレンダーを作ります。

日時：①12月13日(土)10:00～12:30 ②12月14日(日)10:00～12:30

会場：東京国立博物館小講堂 対象：小学校5年生以上の児童・生徒とご家族 定員：10組(応募者多数の場合は抽選)

参加費：無料(ただし当日の入館料が必要です。高校生以下と満70歳以上の方は入館無料)

申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで ①参加者全員の氏名(ふりがな)とお子さんの学年 ②郵便番号・住所 ③電話番号

(FAX番号) ④参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「ファミリー料紙ワークショップ」係

FAX: 03-3822-3010

電子メール：edu@tnm.jp(件名に「ファミリー料紙ワークショップ申し込み」とご記入ください)

締切：①②ともに、11月20日(木)必着

平成館
小講堂

平常展示関連ワークショップ「貝合せを作ってみよう」

10月16日(木)、17日(金)

本館8室「暮らしの調度」で貝桶と貝合せが展示されます。これに合わせて、昨年大好評だった貝合せのワークショップを再び開催します。大名家のお嫁入り道具の第一とされた貝合せ。作品をじっくり見て、歴史を学んだあとは、さまざまな展示作品に見られる伝統的な模様をヒントに自分だけのオリジナル貝合せを作ってみよう。

日時：①10月16日(木)13:00～15:30 ②10月17日(金)17:30～20:00

場所：東京国立博物館 平成館小講堂 対象：一般(高校生以上)

定員：各回20名(応募者多数の場合は抽選。一度の申し込みで2名までお申し込みいただけます) 参加費：無料(ただし当日の入館料は必要です。高校生以下と満70歳以上の方は入館無料)

申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで ①参加者全

員の氏名(ふりがな) ②郵便番号・住所 ③電話番号(FAX番号)

④参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「貝合せワークショップ」係 FAX : 03-3822-3010

電子メール：edu@tnm.jp(件名に「貝合せワークショップ」とご記入ください)

締切：①②ともに、10月3日(金)必着

記念座談会

「琳派の美を語る」

「継承と変奏」をテーマに琳派芸術に迫ります。

出演：坂東玉三郎氏(歌舞伎俳優)・細見良行氏(細見美術館館長)・田沢裕賀(当館絵画・彫刻室長)

日時：10月29日(水) 13:00～14:30(開場12:30)

会場：平成館大講堂

入場料：2,000円(座談会券のみの料金)

※聴講には「大琳派展」観覧券(半券でも可)が必要です。

10月1日より、ぴあにて発売(Pコード:614-091)

前売券とのセット券も販売(3,300円)

チケットぴあ：0570-02-9999

上野の山文化ゾーン講演会シリーズ

「刀剣鑑賞入門—刀の見方、楽しみ方—」

「聞いてみたい講演会」の上位を占める刀剣に関して、基礎知識と鑑賞法を解説します。

講師：原田一敏(当館上席研究員)

日時：10月25日(土) 13:30～15:00(開場13:00)

会場：平成館大講堂

定員：380名(当日先着順) 聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

「東博所蔵舶載洋書にみる幕末維新期の洋学」

特集陳列「世界への扉—東京国立博物館の洋書コレクション—」(10月28日～12月7日)に関連して、幕末維新期の洋学の展開を日欧知識交流史の観点から概説します。

講師：松田清氏(京都大学大学院人間・環境学研究科教授、日本洋学史)

日時：11月8日(土) 13:30～15:00(開場13:00)

会場：平成館大講堂

定員：380名(当日先着順) 聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

横山大観記念館と瀟湘八景をめぐる

(横山大観記念館・台東区教育委員会との連携企画)

日時：第1回 11月21日(金) 第2回 11月29日(土)

*両日とも同内容です。

10:00～ 横山大観記念館を訪問 事前申込制

11:30～ 東京国立博物館でギャラリートーク(自由参加)

講師：植田彩芳子(特別展示室研究員)

ツアー定員：各回20名

参加費無料(ただし横山大観記念館・東京国立博物館の入館料が必要)

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・希望日を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。

申込先：〒111-8621 東京都台東区西浅草3-25-16 台東区生涯学習センター 台東区教育委員会生涯学習課文化財担当「大観ツアー」係

申込締切：10月31日(金) 必着(定員を上回った場合は抽選になります。)

ボランティアによる新しいガイドツアー

「東博たてもの散歩」

東京国立博物館には、展示室のほかにもさまざまな見どころがあります。建築もそのひとつで、東京国立博物館の構内には、「建築の幕の内弁当」と言っても過言ではないほど、多彩な建築群があります。そのうち本館、表慶館、黒門、校倉は重要文化財に指定されています。

2008年は、本館開館70周年、東洋館開館40周年、そして表慶館竣工100周年と、三つの展示館の記念の年です。この3館に法隆寺宝物館を加えて、建築空間の楽しみ方を提案する初心者向けガイドツアーを実施いたします。皆さまの東京国立博物館の楽しみ方に、もうひとつ新たな側面が加われば幸いです。

実施期間：9月18日(木)～11月16日(日)

実施日時：期間中の火曜日、木曜日、日曜日

11:00～、15:00～(各回60分間程度)

集合場所：本館エントランス

※都合により外観のみの見学をする展示館もございます。ご了承ください。

平成20年度 東京芸術大学学生ボランティアによる ギャラリートーク

東京芸術大学大学院生のボランティアが、展示品を紹介します。バラエティーに富んだギャラリートークをお楽しみください。

各回15:30～(30分間程度)

①京都・浄瑠璃寺蔵「地藏菩薩立像」

—平安王朝の信仰と優美—

解説者：丹村祥子

日時：9月3日(水)、9月10日(水)、9月17日(水)、9月24日(水)、9月26日(金)

場所：本館3室(本館エントランス集合)

②青木繁「筑後風景」

—最期に見たふるさと—

解説者：五味良子

日時：9月5日(金)、9月12日(金)、9月19日(金)、9月25日(木)、9月27日(土)

場所：本館18室(本館エントランス集合)

③日本中世の来迎図

—屏風にいらした阿弥陀様—

解説者：原 瑛莉子

日時：9月6日(土)、9月13日(土)、9月15日(月・祝)、9月18日(木)、9月20日(土)

場所：法隆寺宝物館6室(法隆寺宝物館エントランス集合)

④「前九年合戦絵巻」を観る

—絵巻に描かれた人々のすがた—

解説者：中垣千尋

日時：10月9日(木)、10月16日(木)、10月24日(金)、10月26日(日)、10月31日(金)

場所：本館3室(本館エントランス集合)

⑤中国絵画の至宝

—李迪・梁楷と「瀟湘臥遊図巻」—

解説者：和田千春

日時：10月11日(土)、10月19日(日)、10月25日(土)、10月30日(木)、11月1日(土)

場所：東洋館8室(東洋館エントランス集合)

⑥南蛮屏風と泰西騎士像

—まだ見ぬ西洋イメージの源泉—

解説者：浦木賢治

日時：10月22日(水)、10月29日(水)、11月5日(水)、11月8日(土)、11月12日(水)

場所：本館特別2室(本館エントランス集合)

※平成16年度から始まった、同じく東京芸術大学学生ボランティアによる「制作工程模型」の作成が、今年度も進んでいます。今回は初めて絵画をテーマとし、新年から本館20室「みどりのライオン」で展示を行います。作業過程で得られた知見を、模型を前にご紹介するギャラリートークも予定されています。

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

大田佳弘 ピアノコンサート

#CV系TVドラマおよびアニメ「のだめカンタービレ」の演奏指導、ピアノ音源を多数担当する俊才によるコンサート#

日時 11月29日(土) 開演15:00(開場14:30)
会場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出演 大田佳弘(ピアノ)
曲目 ショパン：ノクターン 第8番 変ニ長調 Op.27-2、リスト：タペの調べ アルカン：独奏ピアノのための交響曲 Op.39 No.4-7 ほか
料金 一般 4,500円(全席自由) ※友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,500円
※コンサート料金で、当日の平常展をご観覧いただけます。
主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売場でのチケット販売

受付 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)

●電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270
受付時間 月曜日～金曜日の9:30～17:00(祝休日は除く)
引換時間 コンサート当日、当館正門観覧券売場にて現金引換にてお渡しします。
お問い合わせ 東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL 03-3821-9270
月曜日～金曜日の9:30～17:00(土・日・祝休日は除く)

上野の山文化ゾーンフェスティバル記念講演会

日時 11月13日(木) 16:00～17:00(15:30開場)
場所 東京国立博物館 平成館大講堂 講師 宮田亮平氏 東京藝術大学学長
題目 「ときめきを伝えるもの」
主催 上野の山文化ゾーン連絡協議会
料金 無料 定員 380名(事前申込制)

申込方法

1. 往復はがきによる申込

往復はがきの「住信用裏面」に参加人数(1枚につき2名まで)・代表者の郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・「11宮田氏講演会希望」、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。

2. 電子メールによる申込

参加人数(1回の申込につき2名まで)・代表者の郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・メールアドレス・「11宮田氏講演会希望」を明記して下記アドレスへお送りください。

締切日 10月28日(火) 必着

締切日後に、「参加券」をお送りいたします。※応募者多数の場合は抽選の上、ご案内いたします。

申し込み先・お問い合わせ

〒110-8615 台東区東上野4-5-6 台東区役所文化振興課内「上野の山文化ゾーン」係
メールアドレス:bunkazone2008@city.taito.tokyo.jp TEL 03-5246-1153

「留学生の日」10月18日(土)

日本で学ぶ外国人留学生の方々、東京国立博物館の観覧を通して、日本の文化や伝統に触れ、我が国に対するいっそうの理解を深めていただくことを目的として、今年度も「留学生の日」を実施します。
当日は、留学生とその同行者の平常展観覧料が無料!あわせて、関連するイベントも行われます。

*入館の際に学生証をご提示ください。

*特別展「大琳派展—継承と変奏—」「スリランカー輝く島の美に出会う」については別途観覧料が必要です。

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付
- *賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
- *お問い合わせ
東京国立博物館総務部 賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

関連イベント(参加者多数の場合留学生を優先することがあります。)

博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」

時間 ①11:00～11:20 ②13:30～13:50
場所 本館20室 定員 各回50名(先着順)
お問い合わせ 東京国立博物館 総務課 TEL 03-3821-9270
※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。
※お車でのご来館はご遠慮ください。

「したまちコメディ映画祭in台東」開催

11月21日(金)～24日(月・休)の4日間、上野・浅草を舞台に「したまちコメディ映画祭in台東」が開催されます。東京国立博物館でも23・24日の2日間、コメディ映画講義などの関連イベントを実施いたします。
詳しくは、台東区役所文化観光部にぎわい誘客課 TEL 03-5246-1148(直通)
したまちコメディ映画祭公式ホームページ <http://www.shitacome.jp/>

柳瀬荘アート・教育プロジェクト—地域に眠る文化・芸能・自然・建物から生まれるアートと教育の可能性—

①日本大学芸術学部美術学科絵画コース教職員展「間と軸」

掛軸という共通のスタイルを使って作品を制作し、日本古来の生活空間と現代絵画との融合を試みます。
日時 10月2日(木)～19日(日)〈木～日のみ開催〉10:00～16:30
出品者 有地好登、岩野弘之、蛸子真理央、大庭英治、小山松隆、笹井祐子、嶋村有里子、園山晴巳、高浜利也、高柳裕、福島唯史、宮澤真徳

②日本大学芸術学部美術学科彫刻コース教職員展

歴史的建造物である古民家とその周辺の庭、雑木林、竹林などの自然環境の中に彫刻作品を展示します。
日時 11月6日(木)～22日(土)〈木～日のみ開催〉10:00～16:30
出品者 石川奈緒美、江口遇、太田正恒、大槻孝之、萩原修、小倉洋一、海崎三郎、北沢一伯、木下宏、鞍掛純一、佐藤晃、佐藤久仁子、鷹尾俊一、建島弥弥、多和圭三、溝口達也、脇谷徹

③日本大学芸術学部演劇・映画・文芸コラボレート企画公演

舞劇「竹取物語」—平成柳瀬傾奇念仏講—

いにしえより伝わるかぐや姫の伝説を日本舞踊による創作舞踊、映像、そして念仏踊をモチーフとした舞劇です。
振付・出演 日本大学芸術学部演劇学科日舞コース会
日時 11月9日(日) 16:30開場 17:00開演(40分程度) *雨天中止

会場 東京国立博物館柳瀬荘(埼玉県所沢市大字坂の下437) 入場料 無料
お問い合わせ ①②日本大学芸術学部美術学科 TEL04-2993-2203

③日本大学芸術学部演劇学科(小林・阿久澤) TEL03-5995-8260

平成館考古展示室閉室のお知らせ

11月17日(月)～2009年1月1日(木)、平成館1階考古展示室は展示環境改善のため閉室いたします。

プレゼントのお知らせ

- ◆本誌2～3ページで紹介した「大琳派展」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは10月10日(金) 必着。
- ◆本誌5ページで紹介した「スリランカー輝く島の美に出会う」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは10月20日(月) 必着。
- ◆当館の東洋美術の名品を集めた図録「東洋美術100選」を抽選で10名様にプレゼントいたします。締め切りは11月10日(月) 必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに、希望するプレゼント名、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、この号でいちばんおもしろかった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。
〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館広報室「ニュース10・11月号」プレゼント係

東京国立博物館賛助会員 2008年9月1日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミルク情報サービス 様
TBS 様
読売新聞東京本社 様
三菱商事株式会社 様
凸版印刷株式会社 様
ブルガリ ジャパン株式会社 様
東芝国際交流財団 様

維持会員

東京電力株式会社 様
三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
京楽匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
藪内 匠人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
和田 喜美子 様

佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨファニチャー株式会社 様
星 瑩 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
福垣 哲行 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術数本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
塚越 香 様
高木 美華子 様
日本ハーデス株式会社 様
山岡 ユウ子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
山田 泰子 様
近代書道研究所 様
田村 久雄 様
日本畜産興業株式会社 様
高橋 徹 様
柴田 陸子 様
網村 安代 様
高橋 良守 様
岡田 博子 様
臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
藤倉 光夫 様
川澄 祐勝 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
石川 公子 様
池田 慶子 様
株式会社 東京書芸館 様
青山 千代 様
藤崎 英喜 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
友景 紀子 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
高木 聖鶴 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
シチズンホールディングス株式会社 様
野澤 智子 様
有賀 浩治 様
吉田 幸弘 様

野崎 弘 様
坂田 浩一 様
池谷 正夫 様
池谷 徳雄 様
脇 素一郎 様
秦 芳彦 様
宇田 左近 様
杉原 健 様
木谷 麒巳郎 様
木村 茂直 様
インフォコム株式会社 様
渡久地 ツル子 様
汐崎 浩正 様
関 哲夫 様
堤 勝代 様
山下 由紀子 様
平井 千恵子 様
高谷 光宏 様
青山 道夫 様
田中 千秋 様
学校法人 大勝学院 様
小西 暁也 様
渡谷 洋志 様
山下 昭夫 様
小澤 祐子 様
仙石 哲朗 様
中井 伸行 様
高見 康雄 様
田中 望 様
三井 達雄 様
坂詰 貴司 様
吉田 靖 様
有限会社 システム設計 様
松本 雅彦 様
(ほか39名1社、順不同)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

*京都国立博物館は12月8日より平常展示館の建て替え工事のため平常展示を休止します

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで

〈郵便振替でのお申し込み先〉

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会

口座番号00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート

口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入のうえ、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース

口座番号00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は11月10日です

東京国立博物館メールマガジンのご案内

特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします *ご登録は<http://www.tnm.jp>から

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30～17:00、2008年4月から11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2008年4月から11月の土・日・祝・休日は18:00まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)。

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

* ()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*お申し込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

TOPICS



◆秋の庭園開放

十月二十一日(火)より十一月三十日(日)の十時から十六時まで、毎年恒例「秋の庭園開放」が行われます。本館北側の庭園を自由に散策いただけます。庭園マップ(無料)をお供に、自然の織りなす錦をお楽しみください。

※当日の入館料は必要です。
※荒天により、中止となる場合があります。

◆東京国立博物館所蔵名品展

「サムライ—日本の武家の宝物」開幕



五月二十三日からロシアのクレムリン博物館で開催されています。サムライ—日本の武家の宝物が七月十六日まで、閉幕、十万人の来場者がありました。これは、クレムリン博物館の企画展入場者数としては、歴代第二位、一日あたりの入場者数としては、他を大きくひきはなして一位とのことです。

当館のコレクションがロシアでまとって紹介された初めての展覧会であり、ロシアの皆さんに優れた日本美術にふれていただく、たいへん有意義な展覧会になりました。

◆柳瀬荘での新プロジェクト開始

柳瀬荘は埼玉県所沢市にある、松永安左エ門氏(耳庵)の旧別荘です。昭和二十三年(一九四八)三月、当館にご寄贈いただきました。一七、一三五平方メートルの敷地の中に、重要文化財に指定されている「黄林閣」、書院造りの「斜月亭」と茶室の「久木庵」などがあります。これまで週に一度、外観のみ無料で公開していました



が、このたび柳瀬荘において日本大学芸術学部が、様々なプログラムを行なうことになりました。詳細は十四ページをご覧ください。外観の公開は次のとおりです。公開日・時間 毎週木曜日10時～16時(4月～9月) 10時～15時(10月～3月) ただし、年末年始(12月23日～1月15日)は除く。住所 埼玉県所沢市大字坂の下437 交通案内 東武東上線志木駅から跡見女子大行所バスで15分、「中野」下車徒歩5分。西武新宿線志木駅から志木駅南口行きバスで25分、「西側」下車徒歩3分

◆MUSEUM 615号
(平成20年8月15日発行)の掲載論文
①「顕密融合の両界曼荼羅五仏像について」富島義幸(滋賀県立大学准教授)
②「五十嵐作・蓮池時絵舎利厨子の制作年」竹内奈美子(当館特別展室主任研究員)
③「北斎の漢画学習―独学で習得した漢画の図様と筆法」内藤正人(慶応義塾大学准教授)
④「研究ノート」藤岡朝太郎の美術活動研究活動(明治三十五年、須賀川、重政堂田善)村角紀子

※購読のお問い合わせは中央公論事業出版(電話03-3535-1321)へ。



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特別展覧会「Japan 蒔絵—宮殿を飾る 東洋の燦めき—」10月18日(土)～12月7日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別展「第60回正倉院展」10月25日(土)～11月10日(月)

〈九州国立博物館〉

特別展「国宝 天神さま—菅原道真の時代と天満宮の至宝—」9月23日(火・祝)～11月30日(日)

東京国立博物館10月・11月の展示・催し物

1 WED	14:00
2 THU	14:00 11:00,15:00
3 FRI	夜間開館(20:00まで) 列品解説「彦根更紗と景德鎮」18:30 平成館企画展示室 ウィッキーさんのトークショー 14:00 平成館大講堂*1 15:00
4 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「スリランカの歴史と文化」13:30 平成館大講堂*1 13:30 14:00 15:00
5 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 11:00,15:00
6 MON	休館日
7 TUE	大琳派展 列品解説「漢・北朝の俑」14:00 本館20室 11:00,15:00
8 WED	14:30 14:30
9 THU	14:00 14:00 14:30 11:00,15:00 「前九年年合戦絵巻」を観る」15:30 本館3室
10 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00
11 SAT	時間延長(18:00まで) 連続講座「琳派芸術の基底」第1講*1 14:00 14:30 「中国絵画の至宝」15:30 東洋館第8室
12 SUN	時間延長(18:00まで) 連続講座「琳派芸術の基底」第2・3講*1 11:00,15:00
13 MON	時間延長(18:00まで) 連続講座「琳派芸術の基底」第4・5講*1
14 TUE	休館日
15 WED	14:00
16 THU	14:00 11:00,15:00 「前九年年合戦絵巻」を観る」15:30 本館3室 ワークショップ「貝合せを作ってみよう」13:00 平成館小講堂*2
17 FRI	夜間開館(20:00まで) ウィッキーさんのトークショー 18:30 平成館大講堂*1 15:00 ワークショップ「貝合せを作ってみよう」17:30 平成館小講堂*2
18 SAT	時間延長(18:00まで) 留学生の日 博物館紹介 11:00,12:40 本館20室*3 13:30 14:00 15:00
19 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30,14:00 14:30 14:30 11:00,15:00 「中国絵画の至宝」15:30 東洋館第8室
20 MON	休館日
21 TUE	秋の庭園開放 列品解説「埴輪 猪とその工房」14:00 平成館考古展示室 11:00,15:00
22 WED	14:30 「南蛮屏風と泰西騎士像」15:30 本館特別2室
23 THU	14:00 14:30 11:00,15:00
24 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 15:00 「前九年年合戦絵巻」 を観る」15:30 本館3室
25 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「刀剣鑑賞入門―刀の見方、楽しみ方―」13:30 平成館大講堂 14:00 14:30 「中国絵画の至宝」15:30 東洋館第8室
26 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00,15:00 「前九年年合戦絵巻」を観る」15:30 本館3室
27 MON	休館日
28 TUE	列品解説「東京国立博物館が所蔵する欧米の古典籍」14:00 本館16室 11:00,15:00
29 WED	記念座談会「琳派の美を語る」13:00 平成館大講堂*4 14:00 14:30 「南蛮屏風と泰西騎士像」15:30 本館特別2室
30 THU	14:00 11:00,15:00 「中国絵画の至宝」15:30 東洋館第8室
31 FRI	夜間開館(20:00まで) ウィッキーさんのトークショー 14:00 平成館大 講堂*5 15:00 「前九年年合戦絵巻」を観る」15:30 本館3室

- 人 = ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所:本館1階エントランス
本 = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所:本館1階エントランス
陶 = ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所:本館1階エントランス
彫 = ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所:本館1階エントランス
樹 = ボランティアによる樹木ツアー、集合場所:本館1階エントランス
考 = ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所:平成館考古展示室入口
法 = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所:法隆寺宝物館1階エントランス
応 = ボランティアによる応挙館茶会、集合場所:本館1階エントランス
(一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配布)
庭 = ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所:本館1階エントランスホール
(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)

1 SAT	時間延長(18:00まで) 13:30 14:00 15:00 「中国絵画の至宝」15:30 東洋館第8室
2 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 11:00,15:00
3 MON	時間延長(18:00まで)
4 TUE	休館日
5 WED	14:30 「南蛮屏風と泰西騎士像」15:30 本館特別2室
6 THU	14:00 11:00,15:00
7 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00 ワークショップ「唐紙もようのオリ ジナル料紙を作ってみよう」18:00 平成館小講堂*2
8 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「東博所蔵舶載洋書にみる幕末維新期の洋学」13:30 平成館大講堂 14:00 14:30 「南蛮屏風と泰西騎士像」15:30 本館特別2室
9 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00,15:00
10 MON	休館日
11 TUE	列品解説「越前康継の「脇差 名物 骨喰藤四郎 吉光」写し」 14:00 本館13室 11:00,15:00
12 WED	14:00 14:30 14:30 「南蛮屏風と泰西騎士像」15:30 本館特別2室
13 THU	上野の山文化ゾーンフェスティバル記念講演会 16:00 平成館大講堂*6 14:00 14:30 11:00,15:00
14 FRI	夜間開館(20:00まで) ウィッキーさんのトークショー 18:30 平成館 大講堂*5 14:30 15:00
15 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「スリランカの文化遺産」13:30 平成館大講堂*5 13:30 14:00 14:30 15:00
16 SUN	大琳派展 時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:00 14:30 14:30 13:30 11:00,15:00
17 MON	休館日
18 TUE	列品解説「龍のすがた」14:00 本館20室
19 WED	14:30
20 THU	14:00
21 FRI	夜間開館(20:00まで) 横山大観記念館と瀧湘八景をめぐる*4 15:00
22 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
23 SUN	時間延長(18:00まで)
24 MON	時間延長(18:00まで)
25 TUE	休館日
26 WED	14:00 14:30
27 THU	14:00 14:30
28 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
29 SAT	時間延長(18:00まで) 横山大観記念館と瀧湘八景をめぐる*4 大田佳弘 ピアノコンサート 15:00 平成館ラウンジ*7 14:00
30 SUN	「スリランカ」―輝く島の美に出会う 秋の庭園開放 時間延長(18:00まで) 14:00

- 人 = ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所:本館1階エントランス
本 = ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ、根付づくりコース
(事前予約制、詳細は本誌13ページをご覧ください。抽選10名)
人 = ボランティアによるガイドツアー「東博たてもの散歩」
集合場所:本館1階エントランス 詳細は本誌13ページをご覧ください
芸 = 芸大ボランティアによるギャラリートーク、詳細は本誌13ページをご覧ください
ミュージアムシアター「国宝 聖徳太子絵伝」(10/3~11/24) 上映10:00 11:00
12:00 14:00 15:00 16:00 各回30名、集合場所:本館1階エントランス
*1事前申込制 申込は締め切りました *2事前申込制 詳細は本誌12ページをご覧ください
*3詳細は本誌14ページをご覧ください *4事前申込制 詳細は本誌13ページをご覧ください
*5事前申込制 詳細は前号2~3ページおよび本誌5ページをご覧ください
*6事前申込制 詳細は本誌14ページをご覧ください
*7有料イベントです 詳細は本誌14ページをご覧ください
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。